



未来は、つくれる。

KATARIBA

Shape the Future

インキュベーション事業部
/ユースセンター起業塾

全国津々浦々、
10代に伴走する「人」と「居場所」を
つくりたい人を応援するプログラム

場をつくる仲間を 応援したい

子どもと大人の間地点にあたる思春期の10代。

自由になりたいと思いながら、自分だけで自立することはできないというアンバランスさの中にいる彼らは、その未熟さゆえ、つながる安心感を得ようと空気を読み合い、集団に合わせる行動をしてしまう。

しかし、思春期での出会いや経験はまた、それぞれの人生をも大きく変化させるほどのパワーを秘めている。

そんな10代に必要なのは、彼らが「伸ばせるはずの羽を伸ばせる場所」ではないだろうか。

学校にいる仲間や先生、親とは違う視点で「みんなと違っていい」「こんな考え方もあるよ」

と言ってくれる「ナナメの関係」がある居場所。

家庭でも学校でもない、

しかし、文化資本も圧倒的に少ない地方には、

だけど安心安全を感じられ、

人が手の届くところがない。

地域で居場所をつくる**未知の人や経験と出会える居場所を、**

10代と関わってきたカタリバだが**地方につくっていけないだろうか。**

伝えられるノウハウがきっとあるはずだ。

地域の団体とともに、子どもたちの状況に目をこらしながら、それぞれの地域で今必要な支援を届ける。

そんな場をつくる仲間を応援したい。



向き合う課題

(子ども)

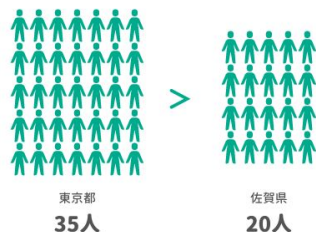
地方と都市の教育格差

学校外での学びの接続機会が乏しい

① 子ども支援NPOの数（10代の子ども1人あたり）



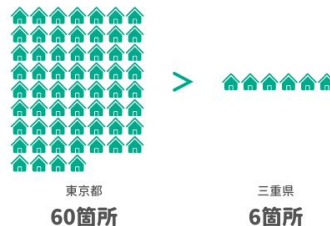
② ナナメの関係（20-30代）人口（10代の子ども10人あたり）



③ 大学進学率



④ フリースクール数（10代100万人あたり）





向き合う課題

(起業家)

地方において、教育をテーマとした起業は ハードルが高い

資金確保の困難性



支援での不安



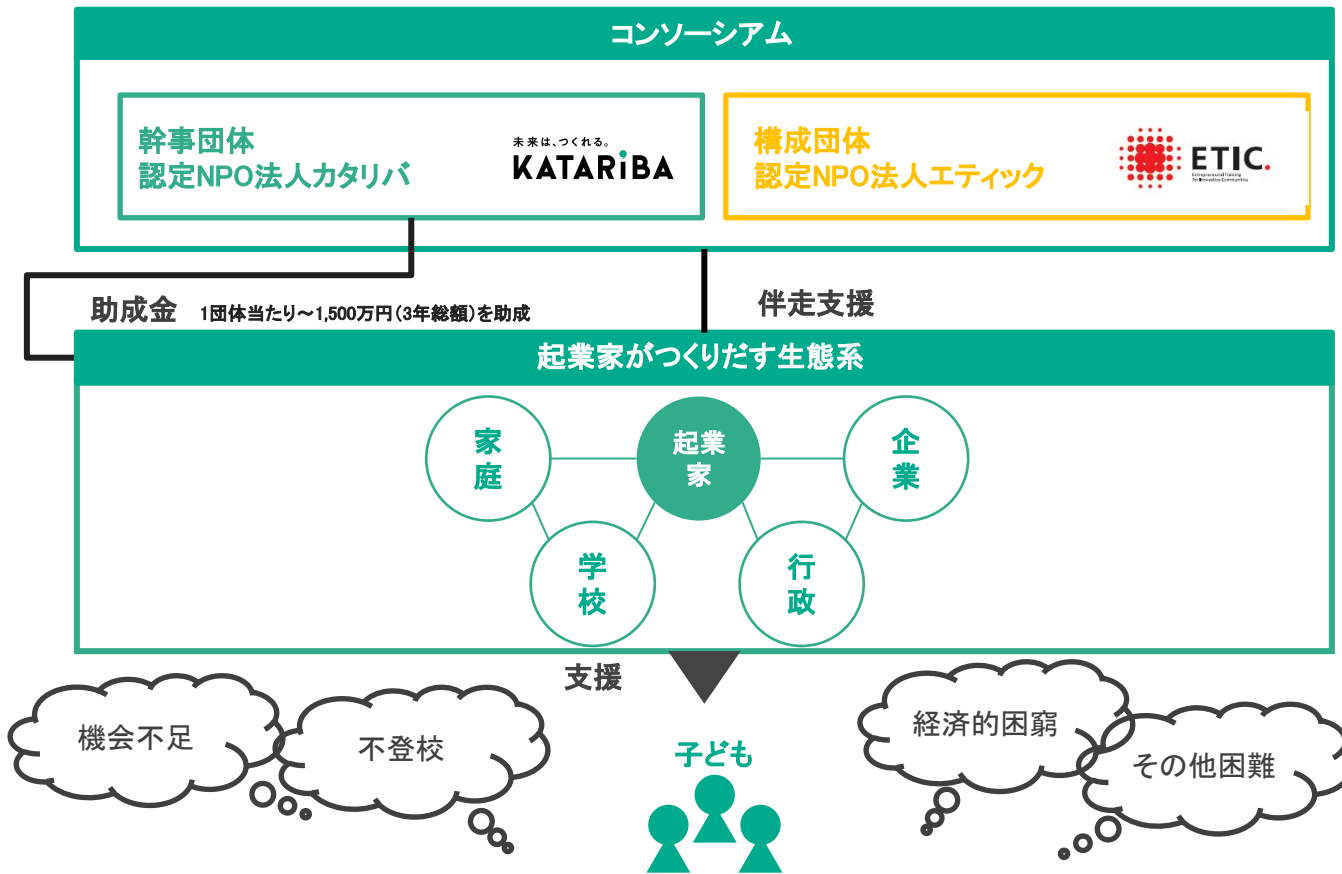
起業での不安



地域における孤独感



支援体制

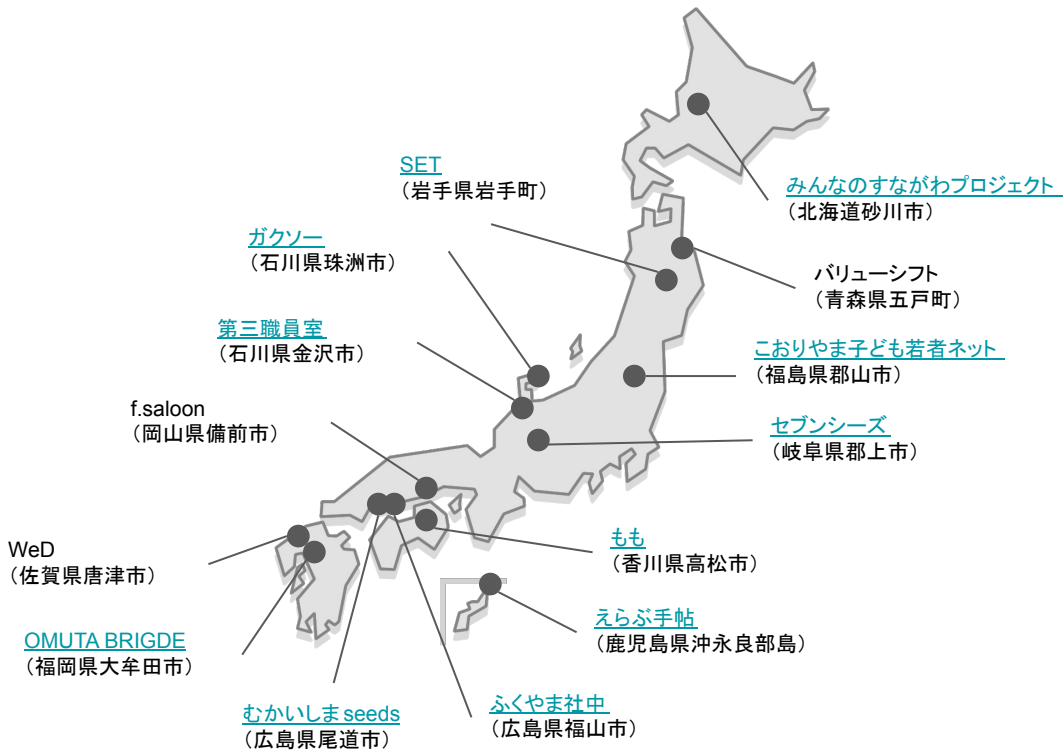




FY22実行団体

全国14団体が実行団体として活動

(公募44団体)※FY23も自主財源で14団体を採択





休眠預金活用事業に参画した意義

豊富な資金源

まだ価値が認められていない分野
腰を据えて活動を立ち上げるための費用

コミュニティの 拡がり

「集団」として運動論を展開していく
従来のコミュニティとは異なる母集団へのアプローチも可能に

中間支援ノウハウの 獲得

組織としてほぼ初めての助成事業
意義ある資金分配、伴走支援の形態を学ぶ